

A-73 食品の嗜好について，オラ報．各対象群における嗜好について
帯広大谷短大　山下　昭　池添博孝

目的 われわれは日本人の食品に対する嗜好性の特徴を捉え，また嗜好の環境による変化の傾向を分析するために，食品の嗜好について研究を進めている。今回は対象を各層に細かく区分して，その各々のグループにおける食品の嗜好について分析したので報告する。

方法 嗜好尺度 Hedonic Scale を用い，180余りの食品についての嗜好傾向を調べた。対象を年齢により A: 15才以下，B: 16～20才，C: 21～30才，D: 31～40才，E: 41～60才，F: 61才以上の6グループに分けた。個々の食品について，各群での尺度の平均値と標準偏差を算出し，尺度による食品の分類を行なった。また尺度1，2および7，8，9，10については個々の食品がこの値に区別される割合を求めて，嗜好尺度の高い食品，低い食品および日常摂取されることの少ない食品に分類した。更に，嗜好尺度に加重を行なって好嗜好係数，嫌嗜好係数値を個々の対象について求め，各層における平均値を導き，各群の間の嗜好傾向の変化について検討した。

結果 185種の食品に対する全対象の平均嗜好尺度は3.9±1.4であった。嗜好尺度1.0に挙げられたものでは，その割合の大きいものから順に示すと，女性でミカン，エビ，柿，モモ，サクランボ，スイカ，夏ミカン，ケーキ，男性ではスジコ，ミカン，イチゴ，サシミ，ビールであった。尺度2.0では，女性でナマコ，脂肉，レバー，馬肉，男性で脂肉，ナマコ，ウニであった，摂取したことがない食品では女性でギョーザ，ユバ，ウィスキー，男性でギョーザ，ユバが大きな割合を占めていた。